

岡山大学

MONTHLY DIGEST

VOL. 9
2017. 1

TOPICS

1

Junko Fukutake Terraceが 「岡山市景観まちづくり賞」に選ばれました

本学津島キャンパスにある市民開放型のカフェテラスJunko Fukutake Terrace(略称:J Terrace)が1月4日、2016年度の「岡山市景観まちづくり賞」に選ばれました。

同賞は良好な景観形成や地域の魅力あるまちづくりに寄与した建築物などを表彰するものです。専門家らでつくる市景観審議会が選考を行い、「開放的な空間として整備された岡山大学の敷地内にあるカフェテラスで、ユニークな形状と透明感のある建物が周辺景観に溶け込んでいる」として高く評価されました。

J Terraceは、妹島和世さんと西沢立衛さんによる世界的な建築家ユニット「SANAA(サナア)」が設計。福武純子様から寄贈されました。

雲のような柔らかい曲線の特徴的な屋根の下、不規則に配された無数の柱が立つ空間、木立の間を散策しているかのような開放的なガラス張りの建物にすることで、地域に開かれた大学

であるという岡山大学のメッセージを伝え、学生や教職員、地域の人々が集える施設です。人々が気軽に関わりあえる交流の場として、また大学と地域を繋ぐ架け橋として重要な役割を担っています。

2014年度には文部科学省が選定する「国立大学等の特色ある施設2014」に、美しい学都構想の実現に向けた本学津島地区のキャンパス整備、Junko Fukutake Hall(略称:J Hall)とともに選ばれています。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6401.html



岡山大学法科大学院のプログラムが高評価 より質の高い法曹教育を実践

TOPICS

2

文部科学省の「平成29年度法科大学院公的支援見直し強化・加算プログラム」の審査結果が12月26日に発表され、最も高い評価である「卓越した優れた取組」として、本学法科大学院の地域貢献に向けたプログラム「地域中核法科大学院の地域連携による西日本(九州・中四国)地区における地域貢献の実現」が選ばれました。そのほか、継続教育、大学間連携に関するプログラムについても、本学が「特に優れた取組」、「優れた取組」として評価されました。

「地域中核法科大学院の地域連携による西日本(九州・中四国)地区における地域貢献の実現」では、①組織内弁護士に対する就職支援・継続教育、②法科大学院修了生に対する就職支援・継続教育、③法務担当者養成基礎研修の実施を掲げています。本学法科大学院は、中四国地域の中核大学として法曹養成・継続教育を実施し、地域の組織に人材を輩出。西日本地区における地域貢献の実現を目指します。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6327.html



最近の大学の取り組み

障がいのある学生への支援について学ぶ FD・SD研修を実施

本学全学教育・学生支援機構は12月15日、「大学職員として、障がいのある学生への対応で心がけてほしいこと～新たに始まった『障害者差別解消法』を理解する～」と題したFD・SD研修会を津島地区の一般教育棟で開催しました。

本学は、障がいのある学生を含む全ての学生が快適に教育を受けられる環境づくりに取り組んでいます。この研修は、その一環として障がいのある学生への対応について理解を深めることを目的に2部構成で実施。教員や事務職員約60人が参加しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6388.html



TOPICS
3

「アジアで最もイノベーティブな大学ランキングTOP75」 本学が38位(国内13位)



トムソン・ロイターのまとめた「アジアで最もイノベーティブな大学ランキングTOP75」(Reuters Top75: Asia's Most Innovative Universities)で、本学が38位(国内13位)にランクインしました。12月21日、Clarivate Analytics(旧トムソン・ロイターIP&Science)の日野博文取締役統括本部長らが来学し、森田潔学長に記念の盾を授与しました。

贈呈式の前には、森田学長、山本進一理事・副学長(研究担当)、リサーチ・アドミニストレーター(URA)らとの意見交換も実施。日野統括本部長から同ランキングについて説明を受けたほか、大学の研究活動とイノベーション力について話し合いました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6400.html

TOPICS
4

学都チャレンジ学生企画成果報告会を開催

本学地域総合研究センターは1月13日、学都チャレンジ学生企画成果報告会を本学中央図書館セミナー室で開催し、学生、教職員、岡山市役所職員等約40人が参加しました。

成果報告会は、学都チャレンジ学生企画に採択された7団体による発表とワークショップの2部形式で実施。1部では、各団体の代表学生がそれぞれの活動成果、反省点等について報告を行い、2部のワークショップでは、参加者が5~6人のグループに分かれて、活動を通じた学生の成長や、地域にもたらした効果について意見を交換しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id6400.html

RESEARCH
HIGHLIGHTS 1

地球形成期におけるコアの軽元素の謎に迫る — 鉄へ溶け込む水素を中性子でその場観察 —

地球の中心核(コア)は主成分である鉄に軽元素が溶け込んだものと考えられおり、どんな軽元素がどの程度存在するのかという疑問に対して、これまで数多くの実験的研究がなされてきました。有力候補の1つである水素は、高压下でしか有意に鉄に溶け込まないこと、X線など従来の実験法では直接観察できないことなどから、その振る舞いはまだよく分かっていませんでした。東京大学、岡山大学惑星物質研究所の奥地拓生准教授と日本原子力研究開発機構J-PARCセンターとの共同研究で、水素の振る舞いを直接観察できる超高压中性子回折装置PLANETを用いて、地球生成初期に集積した物質をモデル化した試料で高温高压実験を行い、高压下で温度が上昇し含水鉱物の脱水が起きると、固体のままの鉄に水素が溶け込むことを明らかにしました。このことから、水素が最初に固体の鉄に溶け込み、その後核-マントル分離や他の軽元素の溶融鉄への溶解が起きた可能性が高いことが示唆されました。

なお、本研究成果は1月13日、科学雑誌「Nature Communications」に掲載されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id443.html

RESEARCH
HIGHLIGHTS 2

ポリアミン輸送タンパク質によるヒスタミン放出調節 新たな抗アレルギー薬へつながる発見

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(薬)の日浅未来助教、竹内智也大学院生らの研究グループは、免疫反応やアレルギー反応を担う肥満細胞でポリアミン輸送タンパク質が働き、ヒスタミンの分泌を調節していることを明らかにしました。本研究成果は1月12日、米国の科学雑誌『The Journal of Biological Chemistry』で公開されました。

ヒスタミンは肥満細胞から分泌される物質で、花粉などのアレルギーが肥満細胞に作用するとヒスタミンが放出され、炎症やくしゃみ、鼻水などの症状が現れます。本研究グループは、肥満細胞での機能や蓄積メカニズムが不明だったポリアミンに注目。ポリアミンが肥満細胞の顆粒内にある小胞型ポリアミントランスポーター(VPAT【用語解説】)と呼ばれるトランスポーター(輸送タンパク質)により輸送され、放出されることを突き止め、放出されたポリアミンがヒスタミンの放出を増強していることを明らかにしました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id442.html

